

写真9

その問題の 6.8 $\mu$ F/350WV のコンデンサは、左矢印の先の様に液漏れ故障した跡があります。

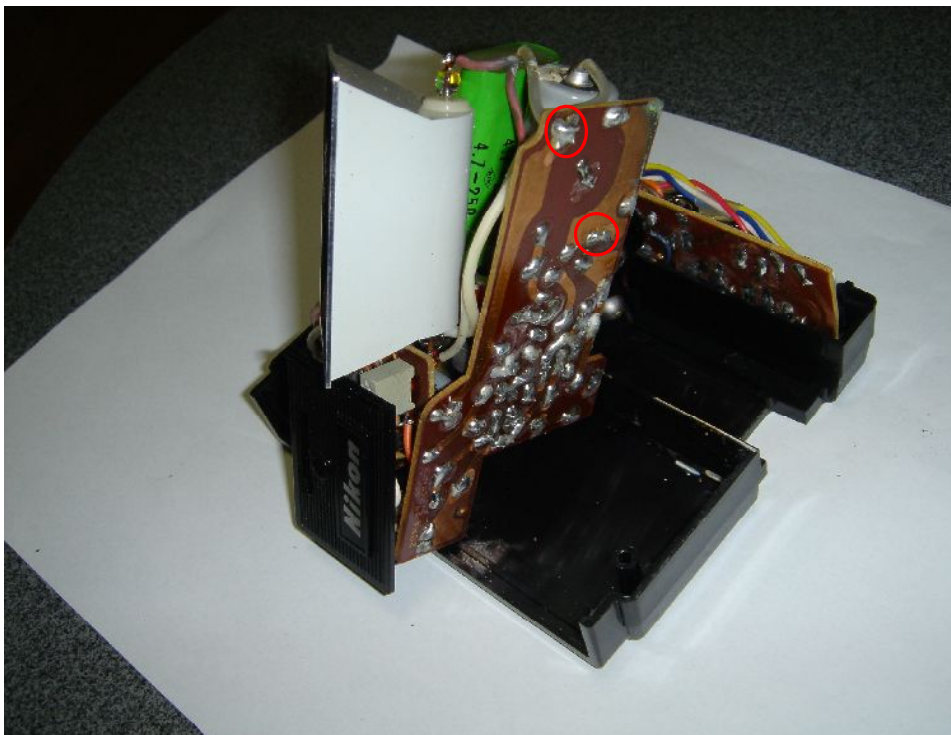


写真10

コンデンサ交換のため基板を起こしたところ。  
左写真の赤丸の2箇所ハンダをはずすとコンデンサがとれます。



写真11

外した、故障したコンデンサ。  
液漏れの跡が見れます。



写真12

上に同じく、外した故障コンデンサ  
なお、リード線にかぶっている透明  
のビニールチューブは、新しいコン  
デンサに移して再利用します。



写真13

故障した 6.8 $\mu$ F/350WV のコンデンサと、新品の 15 $\mu$ F/350V のコンデンサ2個。



写真14

新しい2個のコンデンサは、マイナス端子同士をつなぎ、左写真の様に接続します。マイナスリード線は、この接続には少し短いのでリード線を足しておきます。



写真15

コンデンサとマイナスリード線の間、およびコンデンサの頭同士の間にはビニールテープを挟んで絶縁を確保します。

(電解コンデンサの黒い被服は、絶縁材としては保障されていません。)



写真16

上の写真15の状態に、熱収縮チューブをかぶせて収縮させます。



写真17

新しいコンデンサのリード線（プラス側）の片方は長さが不十分なので、リード線をかからげて、ねじって付けます。さらにハンダ付けしておきます。

この時、上の古いコンデンサから移植しビニールチューブを通すので、リード線があまり太くならない様に注意する。

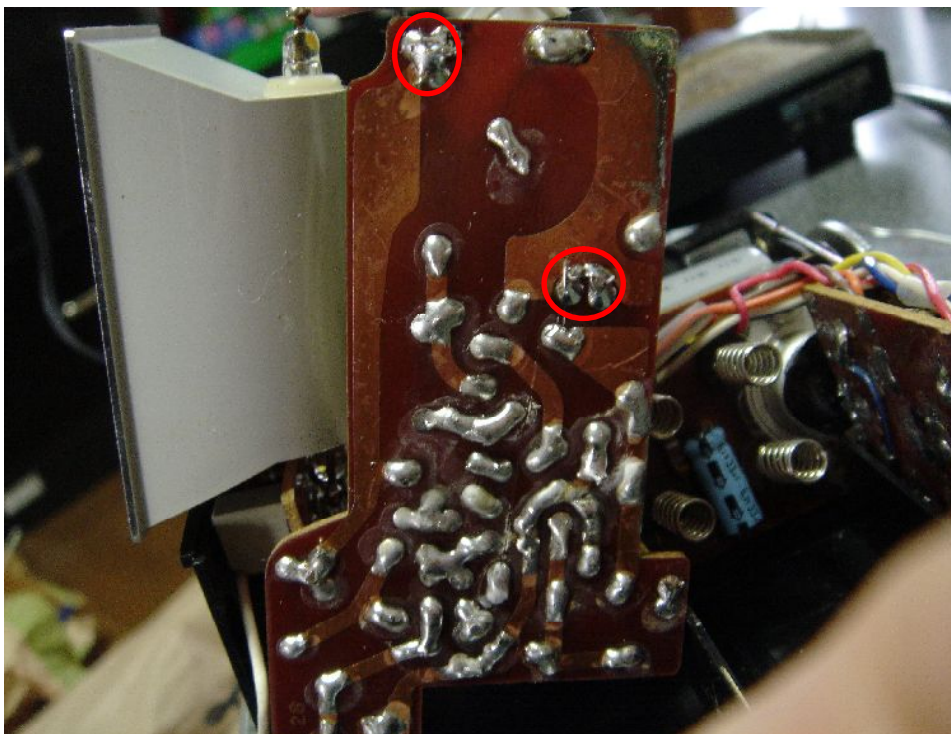


写真18

ハンダ付けしたのは、左の赤丸の2箇所

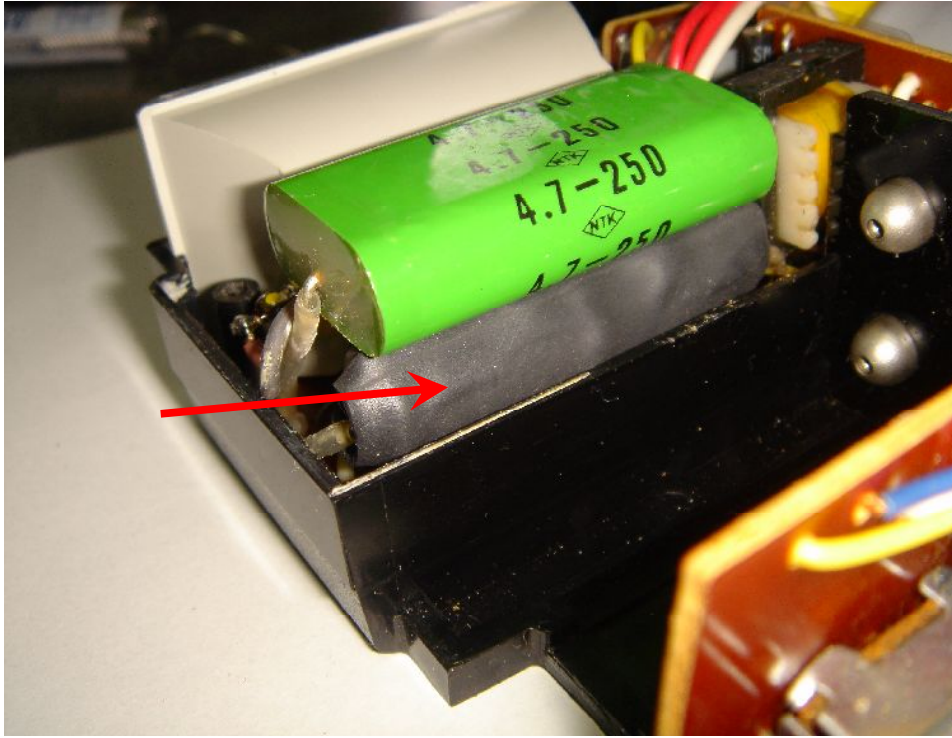


写真19

左の赤矢印の通り、新しいコンデンサが取り付けられました。

ここで、今までと逆の通り組み立てて、ストロボの修理完了。